

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 報徳会	代表者	中村裕可子	法人・ 事業所 の特徴	心の中に心を持ち、人に心を運び心を伝え、五つのわ（和、輪、我、笑、話）の調和を図る。 利用者、家族、地域への視点を持ちあわせて共生に向けた適切なアプローチを行い、共に支え合う関係性へつなぐ支援をしている。
事業所名	黒石ケアサポート センター	管理者	中村公生		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	0人	1人	0人	1人	0人	0人	4人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価には、職員一人一人の職種別の捉え方があるが、評価を職員全体で行い、話し合うことでチームケア、小規模多機能型居宅介護とは何かの確認となるよう協議の場を設ける。	・疑問点や方向性の確認があった際は、互いに確認し共有することで、家族、利用者、地域と共に支え合う関係性に繋げるよう取り組んでいる。	・ほとんどの項目について、改善計画に対する取組みが達成されていることが分かった。中には、未達成の取組みも見られますが、業務量やコロナ禍という現状に鑑みるとすべて改善を期待するには無理があると思う。事業所の中で優先順位が明確であれば、未達成でも構わないと思う。 ・情報収集に余念がなく、何事にも迅速に対応している。	・それぞれの自己評価での改善点について、優先順位を提示し具体的な評価を見える化することで、取組み、進捗状況の明確化となり職員一人一人の把握へ繋げていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	コロナ禍の中、外出や地域交流が制限される状況にある。施設内での環境設定に力を入れ、ふれあい支援室や小規模のレイアウトに四季を感じ、くつろぎ語り合える空間作りをしていく。又、再度本人がどのように暮らしたいのか、本人の持てる力の発揮となるよう、施設全体での環境、サービスメニューを活かし、生活上でのリハビリやレクリエーション、趣味等、活動範囲を広げ生活の継続性へ繋げていく。	・リビング内のレイアウトの変更をし、利用者が落ち着ける場所へ移動し自ら趣味やレクリエーション、リハビリ等、各々が自発的に行い活動範囲の広がりがみられている。 玄関先には昔懐かしいタンスを置き、季節感のあるレイアウトを行い、居心地の良い空間作りできた。 ・毎年やっている畑の作業に力を入れ、収穫した野菜を日々で調理したり、「わ」の食堂で収穫祭を行い、楽しみへと繋げた。	・コロナ禍のため地域の行事・イベントが中止になった。地域との交流が限られている中で広報誌の発行等で情報発信を絶やさないでほしい。 ・玄関先にも椅子、テーブルがあり入居者の方もホールとは違った空間があり楽しみの一つでもあると思う。 ・入り口には「おもてなし」の気持ちが表れている。	・小規模の玄関先に入ってきた際に落ち着ける昔懐かしい環境設定と利用者様が交流し、「見る」「触れる」空間作りを継続し行う。 ・利用者一人一人の生活リズムを理解し、行動、言動、表情から自宅とは違う居場所作りに向け、関わっていく。

C. 事業所と地域のかかわり			<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に伴い地域との関係性の確保が難しい現状において、職員の創意と工夫によって利用者と地域の良い関係性を続けていると思う。 	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<p>今後必要とされる本人、家族への一体的ケアに向けて、他の家族、地域、専門職、役割と出会うことができる場所作りとして、認知症カフェとの連動性や地域で集える環境等を検討することで地域との関係性の支援へ繋げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、在宅利用者の家族様を主とした家族交流会を実施している。定期的な家族交流会の開催に向けニーズや地域性の把握、参加しやすい環境作等を検討し仕組み作りに向けて取り組んでいる。又、認知症カフェに民生委員に参加の際、地域の声、現状について情報収集している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に伴い、恒例の事業について方法を変えたり、代替え事業に移行したりするケースが多々ある事が想像できる。是非、その趣旨や根拠についての理解を職員で共有するよう努めて下さい。ベテランの職員は当たり前の事でも、趣旨についての理解が不十分なまま取り組んでいる若い職員がいるかもしれない。また、移行に至る経緯や変更方法についての取り組みを自己評価するようにしてはいかがでしょうか。 ・何が入居者の方に今一つの支えになるものか必要となった場合、今まで過ごしてきた地域の方の力をお借りし、プラスになるものか、発見できればいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅サービス、地域の方を支えるため少人数で集える場所を作り家族交流会の開催し出会い、話し合い、寄り添える場、専門的なサポート（情報提供）を行い、本人、家族の関係性の支援へ繋げていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み			<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、分かりやすい資料と丁寧な説明をありがとうございます。 ・定期的な会議は同じメンバーだとマンネリ化するので、進行を工夫してほしい。 	
F. 事業所の防災・災害対策	<p>感染症、災害への対応力強化に向けてガイドラインの整備、研修や訓練の実施内容について運営推進会議の場で具体的な進捗状況を伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議にて、防災訓練の状況、今後必要とする課題について報告している。又、新型コロナウイルス感染症初動動作訓練実施状況についても伝え、感染症対策について共有している。 ・安全管理対策として、リスクマネジメント委員会の現地調査の提言を含め、居室の環境や避難経路部分の再確認を行っている。グループ会議等で確認しチーム全 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の備蓄の食糧は有効に活用されているとのこと安心しました。飲料水、その他高齢者の方にも必要な食糧はなかなか大変な事とは思いますが、最近いつ起こるか分からない災害が増えているので、地域のためにもお願いしたい。 ・地震・火事など災害は予告なしに発生するもので、定期的な防災訓練はもとより日頃の点検など防災意識が重要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に安全対策に向けた環境面等の点検を行い防災意識へ繋げる。 ・感染症、災害対策への取り組みを運営推進会議で伝えることで互いの情報共有、地域の状況把握へ繋げていく。

		体で日々での環境面への意識へ繋げている。		
--	--	----------------------	--	--